

韓国語の否定表現 “안 [an]¹⁾ v.s. -지 않 [-ji an]”

— その用法と教育的実践 —

A priority of ‘-ji an’ over ‘an’ in teaching Korean negative expressions

李 潤 玉

This paper is intended to propose that the seemingly difficult negative expression ‘-지 않 [-ji an]’ be taught to beginners of the Korean language before the seemingly easy negative word ‘안 [an]’. It is because the former, which may require you to spend a little more time teaching but has no restrictions in usage, while the latter, which will require you to spend by far less time teaching but has various restrictions in usage which beginners will be perplexed when they are faced with them.

韓国語の肯定文を否定文化する際に「-지 않 [-ji an]」か「안 [an]」かの、いずれかを使う。前者は動詞、形容詞といった、いわゆる用言の語幹と活用語尾の間に割り込む形式をとるのに対し、後者は英語の not のようにそのまま肯定文の中に入れるだけで否定文を作ることができる。このため、後者の方が一見、教えやすく学びやすいように思われるが、この否定語の使用には様々な使用制限があるために却って使いにくいことが、学習レベルが上がるにつれて明らかになってくる。このような苦勞をするぐらいなら、せめて初期学習段階のうちに前者に重点を置いた教え方をした方が良いのではないかということ、実例を用いながら、提案する。

0.はじめに

本稿の主目的は次の二点 (a)、(b)

- (a) 否定表現 「안 [an]」²⁾ と 「-지 않 [-ji an]」³⁾ の用法の違い
- (b) 両否定表現の初期学習者への教え方

に絞られる。

1. 「안 [an]」 と 「-지 않 [-ji an]」

1. 1. 「안 [an]」 と 「-지 않 [-ji an]」 の実例と初期学習者の反応

両否定表現⁴⁾ は普通、次のように使われる :

- (1) { 타로는 그 생선을 먹는다 .
 Taro-neun gu saengseon-eul meongneunda
 (太郎はその魚を食べる)
- (2) { a. { 타로는 그 생선을 안 먹는다 .
 Taro-neun gu saengseon-eul an meongneunda
 (太郎はその魚を食べない)
 b. { 타로는 그 생선을 먹지 않는다 .
 Taro-neun gu saengseon-eul meokji anneunda
 (太郎はその魚を食べない)

これら二つの否定表現への初期学習者の反応は、10人のうち10人が前者、つまり「안 [an]」の方が使いやすい、ということであった。その理由は、彼らがそれまでに学習してきた外国語の英語の否定用語に並行する、ということであった⁵⁾。この理由を (3) として下にあげる；

(3) 初期学習者は「안 [an]」と英語の「not」を並行させる傾向がある。

確かに、(2a) は英語の文 (4) に並行する；

- (4) { Taro does *not eat* the fish.
 (太郎はその魚を食べない)

「並行する」とは、「does」という助動詞の出現を除けば、肯定文に否定語の not を挿入するだけで否定文を作ることが出来るということである。しかしながら、筆者のような韓国語母国語話者にとって不思議なことは、(4) では「does」が新しく現れるということでは後者の否定表現にも「-지 [-ji]」という新要素が現れていることと同様の現象であるにもかかわらず、「does」は気にならないのに対して「-지 [-ji]」は気になる、ということである（ただし、この場合、発音が同音の「안 [an]」と「않 [an]」を同じ語と見なしている）。もし、この原因が「英語を長く学習してきた」という点にあるならば、それは単に「慣れ」に帰する問題であるから、対象が初期学習者であっても、後々のことを考えれば「-지 않 [-ji an]」をしっかりと教えこむことが必要かもしれない。何故なら、後述するように、「안 [an]」には使用制限がいくつも存在する一方、「-지 않 [-ji an]」には全く使用制限がないからである。従って、筆者としては次の (5) の提案をしたい。

(5) 初期学習者に対して

- a. 韓国語には「안 [an]」と「-지 않 [-ji an]」の2つの否定表現が存在するといった類の、どちらでも良い式の教え方は控えた方がよい。さもないと、後々「안 [an]」の使用制限を教えねばならなくなった時には、すでに学習者は「안 [an]」に慣れ切っており、「-지 않 [-ji an]」に対する理解が遅れている。
- b. 「-지 않 [-ji an]」には使用制限はないこと、他方「안 [an]」には使用制限が多いことを実例を示すことによって、両者の違いを明確に教えておく（実際、否定文に「-지 않 [-ji an]」の頻度が「안 [an]」のそれより遥かに多い本の実例があることは後述する⁶⁾）。

1. 1. 1. 「안 [an]」の使用制限

以下の用言は「안 [an]」とは、叙述文、疑問文を問わず、共起しない。

- (6) a. 아름답다 [areumdapda] (=美しい)
- b. 안스럽다 [ansseureopda] (=いたわしい)
- c. 굶주린다 [gumjurinda] (=飢える)
- d. 안다 [anda] / 모른다 [moreunda] (=知る・知っている・分かる / 知らない・分からない)
- e. 있다 [itta] / 없다 [eoptta] (=いる・ある / ない・いない)
- f. (얼굴이) 생기다 [(eolguli) saengida] (= (顔が) ハンサム、醜いことを表す時の表現)
- g. 견디다 [gyeondida] (=我慢する)

以下に、各々の実例文をあげる：

- (7) a. (肯定文) 이 꽃은 아름답다. (=この花は美しい)

i kkocheun areumdapda

- (否定文) { (叙述文) * 이 꽃은 안 아름답다.
 (疑問文) * 이 꽃은 안 아름답습니까?

- b. (肯定文) 이 아이가 안스럽다. (=この子供がいたわしい)

i aiga ansseureopda

- (否定文) { (叙述文) * 이 아이가 안 안스럽다.
 (疑問文) * 이 아이가 안 안스럽습니까?

- c. (肯定文) 그 사람은 굶주린다. (=あの人は飢える)

gu sarameun gumjurinda

- (否定文) { (叙述文) * 그 사람은 안 굶주린다.
(疑問文) * 그 사람은 안 굶주립니까?

- d. (肯定文) 그는 그 사실을 안다/모른다. (=彼はその事実を知っている/知らない)

guneun gu sasileul anda moreunda

- (否定文) { (叙述文) * 그는 그 사실을 안 안다/모른다.
(疑問文) * 그는 그 사실을 안 안니까/모릅니까?

- e. (肯定文) 집에 돈이 있다/없다. (=家にお金がある/ない)

jibe doni itta eoapta

- (否定文) { (叙述文) * 집에 돈이 안 있다/없다.
(疑問文) * 집에 돈이 안 있습니까/없습니까?

- f. (肯定文) 그는 얼굴이 잘 생겼다. (=彼はハンサムだ)

guneun eolguli jal saenggyeotta

- (否定文) { (叙述文) * 그는 얼굴이 안 생겼다.
(疑問文) * 그는 얼굴이 안 생겼습니까?

- g. (肯定文) 더위를 견딘다. (=暑さを我慢する)

deowireul gyeondinda

- (否定文) { (叙述文) * 더위를 안 견딘다.
(疑問文) * 더위를 안 견딤니까?

1. 1. 2. 何故 1. 1. 1. での共起関係が非文を生むか?

1. 1. 1. における「안 [an]」と各々における用言との共起が非文を生むのかには次に述べるような原因が存在する。

- (8) 아름답다 [areumdapda] (=美しい)、안쓰럽다 [ansseureopda] (=いたわしい)、굶주리다 [gumjurida] (=飢える): 母音「아 [a]」から始まる用言や長音節用言には「안 [an]」との共起には制限が生ずる。前者は同音連続の回避、後者は「안 [an]」の否定の磁場が極めてせまいことがその理由。同様の指摘については(서정수:1996、김동식:1980等)。

- (9) 알다 [alda] / 모르다 [moreuda] (=知る・分かる/知らない・分からない)
있다 [itta] / 없다 [eoapta] (=いる・ある/ない・いない): 肯定語に対して否定語が存在する用言には「안 [an]」との共起が不可能である。

(10) (얼굴이) 생기다 [(eolguli) saengida] (= (顔が) ハンサム、醜いことを表す時の表現)

전디다 [gyeondida] (=我慢する) : 慣用的な表現として「못 생겼다 (= (顔が) ハンサムではない、醜い)」、「못 전디겠다 (=我慢することができない)」のように、否定形としては不可能の意を表す副詞「못 [mot]」と共起する。

2. 1. 「漢字語 + 하다 [hada]」動詞

2. 1. 1. 「漢字語 + 하다 [hada]」の内部構造

漢字語と固有語「하다 [hada]」との結合によって多くの複合動詞が生み出された。これらの二つの構成要素の結びつきの強さは極めて弱いといわねばならない⁷⁾。このことは、例えば、以下 (11) ~ (15)

(11) 그는 열심히 공부한다. (=彼はよく勉強する)

gu-neun yeolsimi gongbuhanda

(12) 가족이 함께 식사한다. (=家族が一緒に食事する)

gajog-i hamkke sigsahanda

(13) 부모님께 전화한다. (=両親に電話する)

bumonim-kke jeonwahanda

(14) 박물관을 견학한다. (=博物館を見学する)

bagmulgwan-eul gyeonhaghanda

(15) 운동장에서 운동한다. (=グラウンドで運動する)

undongjang-eseo undonghanda

の各々において、漢字語で表される名詞の統語上の機能が他動詞「하다 [hada]」の対格目的語であることを示す助詞「를 [reul]」⁸⁾を挿入した (11') ~ (15') と上出 (11) ~ (15) とは各々知的意味は⁹⁾同じであることから裏付けられる。

(11') 그는 열심히 공부를 한다. (=彼はよく勉強をする)

gu-neun yeolsimi gongbu-reul handa

(12') 가족이 함께 식사를 한다. (=家族が一緒に食事をする)

gajog-i hamkke sigsa-reul handa

(13') 부모님께 전화를 한다. (=両親に電話をする)

bumonim-kke jeonwa-reul handa

- (14') 박물관을 견학을 한다 . (=博物館を見学をする)
 bagmulgwan-eul gyeonhag-eul handa
- (15') 운동장에서 운동을 한다 . (=グラウンドで運動をする)
 undongjang-eseo undong-eul handa

2. 1. 2. 「안 [an]」의 否定의 磁場

「안 [an]」と「漢字語+「하다 [hada]」動詞が共起すると非構造的になることは、上出 (11) ~ (15) に「안 [an]」を挿入した次の (16) ~ (20) が非文になることから明らかであるが、同時に知的意味は (11) ~ (15) と等価と見なされる上出 (11') ~ (15') に「안 [an]」を挿入した (16') ~ (20') も非文になる。(16) ~ (20) における「안 [an]」が一見、直後の「漢字語+하다 [hada]」全体を否定しているように思えたものが、(16') ~ (20') では直後の漢字語名詞のみを否定できても、「対格助詞「를 [reul] (=を)」を飛び越してまで「하다 [hada]」を否定する力がないことが浮き彫りになる :

- (16) *그는 열심히 안 공부한다 . (=彼はあまり勉強しない)
 gu-neun yeolsimi an gongbuhanda
- (17) *가족이 함께 안 식사한다 . (=家族が一緒に食事しない)
 gajog-i hamkke an sigsahanda
- (18) *부모님께 안 전화한다 . (=両親に電話しない)
 bumonim-kke an jeonwahanda
- (19) *박물관을 안 견학한다 . (=博物館を見学しない)
 bagmulgwan-eul an gyeonhaghanda
- (20) *운동장에서 안 운동한다 . (=グラウンドで運動しない)
 undongjang-eseo an undonghanda
- (16') *그는 열심히 안 공부를 한다 . (=彼はあまり勉強をしない)
 gu-neun yeolsimi an gongbu-reul handa
- (17') *가족이 함께 안 식사를 한다 . (=家族が一緒に食事をしない)
 gajog-i hamkke an sigsa-reul handa
- (18') *부모님께 안 전화를 한다 . (=両親に電話をしない)
 bumonim-kke an jeonwa-reul handa
- (19') *박물관의 안 견학을 한다 . (=博物館の見学をしない)
 bagmulgwan-ui an gyeonhag-eul handa

- (20') *운동장에서 안 운동을 한다. (=グラウンドで運動をしない)
undongjang-eseo an undong-eul handa

2. 2. 「-지 않 [-ji an]」が必要な理由

結局のところ、「漢字語+하다 [hadal]」動詞の否定は「하다 [hada]」のみを否定することと知的意味は同じである。従って次の (21) ~ (25)、(26) ~ (30) の両形否定文が考えられる。

- (21) 그는 열심히 공부 안 한다. (=彼はあまり勉強をしない)
gu-neun yeolsimi gongbu an handa

- (22) 가족이 함께 식사 안 한다. (=家族が一緒に食事をしない)
gajog-i hamkke sigsa an handa

- (23) 부모님께 전화 안 한다. (=両親に電話をしない)
bumonim-kke jeonwa an handa

- (24) 박물관을 견학 안 한다. (=博物館を見学をしない)
bagmulgwan-eul gyeonhag an handa

- (25) 운동장에서 운동 안 한다. (=グラウンドで運動をしない)
undongjang-eseo undong an handa

- (21') 그는 열심히 공부를 안 한다. (=彼はあまり勉強をしない)
gu-neun yeolsimi gongbu-reul an handa

- (22') 가족이 함께 식사를 안 한다. (=家族が一緒に食事をしない)
gajog-i hamkke sigsa-reul an handa

- (23') 부모님께 전화를 안 한다. (=両親に電話をしない)
bumonim-kke jeonwa-reul an handa

- (24') 박물관의 견학을 안 한다. (=博物館の見学をしない)
bagmulgwan-ui gyeonhag-eul an handa

- (25') 운동장에서 운동을 안 한다. (=グラウンドで運動をしない)
undongjang-eseo undong-eul an handa

これらの場合と同様に、例えば次の (26a、b) のように

- (26) a. 나는 집을 개조할 생각이다 (=私は家を改造するつもりだ)
na-neun jib-eul gaejohal saenggagida

- b. ?? 나는 집을 개조를 할 생각이다 (= ?? 私は家を改造をするつもりだ)
na-neun jib-eul gaejo-reul hal saenggagida

「漢字語하다 [hada]」動詞を分解し、「를 [reul] (=を)」を使うと、極めて不自然な文になることは、同様の例をもう一つ (27a、b) としてあげるだけで十分だろう。

- (27) a. 나는 집을 신축할 생각이다 (=私は家を新築するつもりだ)
na-neun jib-eul sinchukal saenggagida
b. ?? 나는 집을 신축을 할 생각이다 (= ?? 私は家を新築をするつもりだ)
na-neun jib-eul sinchuk-eul hal saenggagida

ここから「를 [reul] (=を)」が連続する「…를 [reul] …를 [reul]」と異なり、「를 [reul] (=を)」を一回だけ使う分解現象は韓国語にも日本語にもこの種の表現が大変多い。特に口語体の日常表現として使われることが多い(例、散歩しに行く ↔ 散歩をしに行く)。この「漢字語하다 [hada]」を分解することなく「漢字語하다 [hada]」動詞として「하다 [hada]」のみを否定するために「하다 [hada]」の内部に否定表現を語幹と活用語尾の間に割り込ませる必要性が生じたと考えられる。

2. 2. 1. 語の内部否定

例えば「(공부) 하지 않는다 [(gongbu) ha-ji anneunda] (=勉強しない)」のような内部否定は日本語や英語にないだけでアルタイ語 (Altaic) に共通して観察される現象である¹⁰⁾。アルタイ語の一つであるトルコ語からの一例を (28) として示す。

- (28) a. O geldi.¹¹⁾ (=彼/彼女は来た)
 (he / she came)
b. O gelmedi. (=彼/彼女は来なかった)
 (he / she come-not-3rd person past)

(28b) の gelmedi の否定辞「me」が語幹「gel-」と活用語尾の間に割り込む現象は、「하다 [hada]」の語幹「하 [ha]」と活用語尾「다 [da]」の間に割り込む現象は全く同じである。日本語や英語に見られないだけでアルタイ語と同じ現象と考えれば、何ら不思議な否定形式法ではない。「하다 [hada]」の内部否定の説明の際、このような他言語の類似性を示し、何ら奇異なものでないことを認識させれば、「하지 않다 [haji anta] (=しない)」の理解の一助になるかもしれないし、時には他言語を紹介することは授業に変化をもたせる効果を期待できる。

2. 2. 2. 「-지 [-ji]」と「않 [an]」の説明

- i : 「안 [an]」と「않 [an]」は同音なので、綴り字の違いに注意させること
- ii : 「-지 [-ji]」と「않 [an]」は必ず「-지 않 [-ji an]」として一塊で記憶させること
- iii : 「-지 [-ji]」は必ず語幹の直後に生じ、「않 [an]」は活用語尾の直前に生ずること¹²⁾、逆に言えば、「-지 [-ji]」は左側に語幹が存在することを示す合図、「않 [an]」は「ㄹ」の右側に活用語尾が存在することを示す合図、と教える方法もある。

3. まとめ

韓国語の否定表現には「안 [an]」と「-지 않 [-ji an]」の二種類が存在するが、特に初期学習者には安易にどちらでも良い式の教え方をしない必要がある。その理由は、難しそうな後者より、易しそうな前者だけを覚える可能性があるからである。従って、初期学習者の今後を考えるなら、むしろ後者の表現に慣れさせることに重点を置き、前者には軽く触れる程度が良い。

そして、日常会話では「안 [an]」否定形の方が多用される事実は、学習者がかなりの段階、あるいは会話の段階に達した時点で詳細に教えれば良い。二種類の否定表現が韓国語に存在することをきっちり教えるには、このような方法も考えられることを提案したい。

注

- 1) 本論文の韓国語の表記には2000年7月7日の문화관광부 고시 (文化観光部告示) による国語のローマ字表記法を用いる。なお、韓国語が読めない学習者、研究者にでも発音が分かるようにするために [] を用いてローマ字表記している。この理由は、ソウルオリンピック (1988年) をひかえた1984年韓国の文教部が「韓国語の発音を原音に近く発音できるような表記法」を決定したが、これが後に表記法の混乱を招くことになったからである (国語文化研究所 (2000: 3-4))。このような事柄を踏まえて、本論では発音優先の表記法を英語の発音記号角かっこを用いて示している。
- 2) 「안 [an]」は「아니 [ani]」の縮約形であるが、用言の否定表現では実際に使われるのは「안 [an]」であるため、本稿では「안 [an]」を用いることにする。
- 3) 「-지 않 [-ji an]」も「안 [an]」と同様、「-지 아니하 [-ji aniha]」が縮約されて使われるのが一般的であるため、本稿では「-지 않 [-ji an]」を用いることにする。
- 4) 韓国の国語研究書では否定表現「안 [an]」を、否定要素が比較的短いことから短形否定 (short form)、用言の前で使われる否定方式であるため先行否定 (pre-verbal negation)、「-지 않 [-ji an]」は否定要素が「안 [an]」より長いことから長形否定 (long form)、また用言の後ろの方で使われるため後行否定 (post-verbal negation) という用語が用いられている。
- 5) この調査は関西大学、近畿大学、大阪外国語大学、吹田国際交流協会韓国語講座での初期学習者を対象に前三校は2003年春学期に、後者は2000年～2003年に行った。
- 6) 例えば、공경희訳『모리와 함께한 화요일』、原作名: *An old man, a young man, and life's greatest lesson* では「-지 않 [-ji an]」と「안 [an]」の出現は「210回: 10回」である。この翻訳は勿論韓国語母国語話者によって行ったものであるから、原文の英語に影響されて自身の直観力に反する表現は用いないと見なしてよい。ただし、両表現の頻度は個人の文体の傾向、出身地、教育程度等、言語地理学の点からの広い観察が必要である。

- 7) 固有の「하다 [hada]」動詞でさえ、例えば「일하다 [il-hada] (= 働く)」、「빨래하다 [ppalrae-hada] (= 洗濯する)」等の否定形には「-지 않 [-ji an]」しか用いられないことから、「漢字語하다 [hada]」動詞と「-지 않 [-ji an]」の共起は当然のことと言える。なお、「求/吐/変/加/期」など、一語の漢字語と「하다 [hada]」の統合語はこの限りではない。その理由はこれらの漢字語は「하다 [hada]」と分離した独立語として機能しないからである。
- 8) 日本語の対格助詞「を」に相当する韓国語助詞は「를 [reul]」と「을 [eul]」がある。これらは音韻論的な異変形態であって同意である。前者は母音で終わる体言、後者は子音で終わる体言に後続する。例文以外の場合は便宜上「를 [reul]」を代表形として用いる。
- 9) Leech (1974) 等の言う 'conceptual meaning' のことで、観念的意味、概念的意味とも言う。
- 10) このような理由から韓国語をアルタイ語族に含める説もある。例えば、大塚 (1982: 186)、国語学会 (1993: 21 ff.)、亀井 (1988: 528 ff.)。
- 11) gelmek 否定形
gel- 来る/行く
-di 三人称単数過去
- 12) まず、動詞の現在形を使って慣れさせることを目的とするため、このように記述する。その後、過去形や意志未来現象などでは応用段階と考える。これらの段階をマスターした学習者、つまり、もはや初期学習者ではない人には「日常会話では「안 [an]」否定形の方が多用される」ことを教える必要がある。

参考文献

- 飯沼英三 (1996) 『新トルコ語辞典』ベスト社.. 東京.
- 亀井孝他 (編) (1988) 『言語学大辞典』第1巻.三省堂.東京.
- 勝田 茂 (1986) 『トルコ語文法読本』大学書林.. 東京.
- Kim, D. S. (김동식) (1980) 「현대 국어 부정법의 연구 (現代国語否定法の研究)」 국어 연구 42, 국어 연구회. ソウル.
- 金 貞淑 (編) (1996) 『例解新韓日辞典』民衆書林. ソウル.
- 国語学会 (編) (1993) 『国語学大辞典』東京堂出版. 東京.
- 国語文化研究所 (국어문화연구소) (2000) 『로마자 표기 용례집 (ローマ字表記用例集)』 보고사. ソウル.
- Kong, K. H. (공경희) (trans.) (1998) 『모리와 함께한 화요일』 세종서적. ソウル.
- 李 崇寧他 (監修) (1974) 『標準韓国語Ⅱ』高麗書林. 東京.
- Lee, I.S. & Im, H.B. (이익섭, 임홍빈) (1998) 『国語文法論』学研社, ソウル.
- Leech, G., N. (1974) *Semantics*, Penguin Books Ltd., London.
- Nam, K. S. (남기심) (1997) 『표준 국어 문법론 (標準国語文法論)』 탑출판사. ソウル.
- 太田 朗 (1980) 『否定の意味』大修館書店. 東京.
- 大塚高信他 (編) (1982) 『新英語学辞典』研究社. 東京.
- Seoul 大学大学院国語研究会 (서울대대학원 국어연구회) (1990) 『国語研究 어디 까지 왔나 (国語研究どこまで来たのか)』 두산동아. ソウル.
- Shin, C. S. (신창순) (1982) 「국어 부정법의 연구 (国語否定法の研究)」 언어7.1., ソウル.
- Shin, W. J. (신원재) (1987) 「현대 국어 부정 표현에 관한 연구 (現代国語の否定表現に関する研究)」 국어국문학 논문집27, 서울대 사대 국어과. ソウル.
- Suh, C. S. (서정수) (1996) 『현대 국어 문법론 (現代国語文法論)』 한양대학교 출판원. ソウル.
- 東亜出版社 編輯局 (編) (1990) *Prime Korean-English Dictionary*, 東亜出版社編輯局. ソウル
- Um, J. H. (엄정호) (1987) 「장형 부정문에 나타나는 ‘-지’ 에 대하여 (長形否定文に現れる ‘-ji」

韓国語の否定表現 “안 [an] v.s. -지 않 [-ji an]” (李)

対して)」 국어학16., ソウル.

Yasuda, Y. & Son, N. (安田吉美・孫洛範) (1998) 『日韓辞典』 民衆書林. ソウル.